

作

作 目

急戦

	高	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
	長	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
	長	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
	長	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
	長	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
	長	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
	長	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
	長	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
	長	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
	長	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
	長	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十

五航空艦隊

機密第一九〇九三二番電

一EFGH信電令作編一二六號

今回ノ攻撃ハ中國四國方面ニ指向セラレ南九州方面敵機ノ來襲淺薄ナリ各隊ハ避退基地ニアル飛行機ヲ各所屬又ハ作戰基地ニ歸投セシメ兵力ヲ整頓スルト共ニ整備ニ全力ヲ盡シ作戰實動兵力ノ増強ヲ急施スベシ。

通九七九〇

四一Bケ五 (七八七五KG)

一EFGH放

福島(渡邊)

基地

航作

本機

昭和廿年參月廿日

407

三一九

受信一四三〇
譯始一四五〇

譯了一六〇〇 電〇八九二二

作機

緊急

四五號海防艦

昭和廿年參月廿壹日

傷

詫間航空隊

鹿屋航空隊・松輪航空基地

機密第一九〇九

局長	課長						
A	L						

二分ノ一

○六二七三重縣的矢港ニ不時着機體揚收(被彈百以上一發損傷)人員
 川瀬飛長 肩部貫通銃創(重傷) 永田上飛曹 輕傷其ノ他異狀ナシ 〇三三
 ○機場離脱 〇四三〇頃敵艦載機ノ攻撃ヲ受ケ追尾サレシモ 〇六〇〇頃
 回達 撃退ス。

《通信課註 本電二分ノ一未着》

通七八七二

天二日ケ六

B

橋須賀

末松(渡邊)

三一九
至 急

受信 一三三〇
始 一二三〇

譯了 一三二〇
電 〇八六六五
作 概



聯合艦隊口・一潛水隊ト・吳鎮

機密第一九一〇〇〇番電

架戰團報

〇七一五ヨリ〇九〇〇迄吳港口ニ於テ敵ノ艦上後延約一三〇機ト交戦
撃攘戦果被害ナシ。

409

通九七九二

呂一Bケ五(七五〇五KC)吳通

松田(島田)

昭和廿年參月廿日

三一九 受信一四四八 譯始一五五〇
譯丁一六三三 譯〇八六五七
作紙〇
航本

保安緊急

託開航空基地



三 重 空
鹿屋空基地
【通譯表示】 三 上 上 備 下 ？

機密第一九一〇五九番電

發 第八〇一坐飛行機長

宛 第一 三重空司令

通報。八〇一坐司令

管隊二式飛行機一機、機長木下少尉、十八日夜間、胸按ニテ以テト交戦
機彈十九三〇六二五 三軍隊志摩郡的矢村高野ニ不時着重傷一名輕傷
一名アリ救助三機シ至急御手配ヲ待度。

三九八九一 信一四〇五八六〇五K〇此機 中島一機出

昭和廿年參月廿日

49

作

作戰緊急

三一九
受信一三四六
譚始一三五八
譯了一四〇七
電〇八六一五
作櫛

鳳	鳳	鳳	鳳	鳳	鳳	鳳	鳳
鳳	鳳	鳳	鳳	鳳	鳳	鳳	鳳
鳳	鳳	鳳	鳳	鳳	鳳	鳳	鳳
鳳	鳳	鳳	鳳	鳳	鳳	鳳	鳳
鳳	鳳	鳳	鳳	鳳	鳳	鳳	鳳
鳳	鳳	鳳	鳳	鳳	鳳	鳳	鳳
鳳	鳳	鳳	鳳	鳳	鳳	鳳	鳳
鳳	鳳	鳳	鳳	鳳	鳳	鳳	鳳

機密第一九一一四〇番電

夕風戦闘櫛報第一號

長島(山口縣)北方ニ於テ敵グラマン七機ト〇九三三ヨリ〇九三三迄
交以之ヲ撃退 戦果被審ナシ 發射弾數二十五耗機銃彈二八〇個

通九八五二

才一四(七五〇五) 吳

仙波(松井)

昭和廿年參月廿日

411

昭和廿年參月廿日

三一九 受信一三三四 譯了一五〇五 電〇八六二〇 作 概

作戰緊急

佐伯航空基地

鹿屋航空基地



機密第一九一一四四番電

發 浪上少尉 宛 七六二空司令

戰場到達 時 ○五二〇艦型不詳二隻大火災炎上中 離脫 時 沈沒確實 尙海
中三投下セル爆彈ハ不發ナリ目下發動機調査中。

通九八二九 占一Bケ五 (九八三〇K) 佐二放 田中(三石)

手

三一九

受信一六四五
譯始一七〇〇

譯了一七四四

電〇八七一四

作 概

緊急

松山航空基地



七基地航空部隊戰圖概報着信艦所・第一機動基地戰圖概報着信艦所

機密第一九一四一六番電 其ノ二

三四三空戰圖概報 三月十九日 其ノ二

自〇六一五至〇九〇〇紫電二四紫電改五一機ヲ以テ吳ニ侵入セント
スル 敵戰爆聯合一五〇ヲ内海西部ニテ邀撃

一、今迄ニ判明セル戰果墜陸四五機（内地上銃ニヨリ五）

二、未歸還一二（他基地不時着セルモノ相言アル見込）

三、自〇六〇〇至一一〇〇通過セル敵約三五〇機。

413

通九九八三

於十四

（

）

木空

山本

（

）

昭和廿年參月廿日

緊急

作

三二〇
受信一〇四五
譯始一一三四五

譯了一二三五

電〇九〇八五

昭和廿年三月廿日

概

聯合艦隊口・東通

高

警口

海上護衛總部隊各口・一航空艦隊口・支那方面艦隊口・二遣支艦隊
海南警口・沖繩方面特根口・佐鎮・臺灣空

機密第一九一四四〇番電

ニ戰果ナシ
三被害

局長	評長	A	L	分	振
B	K	E	J		

(一) 東港基地水偵三機炎上格納庫一火災死傷者二名

(二) 臺南航空基地零戰五機炎上一機小破九六式陸攻一機炎上機

(三) 銃四機銃車一機銃彈倉一五損傷死傷者八名

(四) 仁德基地天山二機中破三機小破滑走路掩體壕二被彈 4 174

(五) 東港街民家燒失約三〇〇戶死傷者數十名

(六) 電信課註 本誌二分ノ一未着

近一〇三三一 呂一Bラ一八(一三五二〇KC) 高通

小セリ(高橋)

人

三一九 受信一九〇六 譯了二二五三 電 〇〇八八八八八

昭和廿年參月廿日 作説



南號作戰部隊・海部隊
大本營海軍部・支那方面艦隊口・十方面艦隊口
海上護衛總口

機密第一九一六一六番電 二分ノ一二

發 聯合艦隊司令長官
重要物資還送作戰一時中止セラルルニ當リ軍令部總長ヨリ同作戰關係
各部隊ノ一ヶ月餘ニ亘リ日夜決死的努力ニ對シ深甚ナル敬意ヲ表セラ
ルルト共ニ其良好ナル成果ニ對シ賞詞ヲ承ク

右傳達ス
尙好機アラバ第二次還送作戰ヲ實施セシメララルル豫定ニ付關係各部隊
ハ本作戦ニ對スル帝國ノ要請ヲ認識シ更ニ一層ノ工夫努力トヲコラ
通一〇〇〇一〇六 天二日ケ六 (B) 口
通一〇〇〇一〇六 西村・神山 (酒卷)

シ第一 次 還 送 作 戦 ヨリ 以 上 成 績 ヲ 舉 ゲ シ コ ト ヲ 期 待 ス ル ト 共 ニ 第 一 次
還 送 作 戦 關 係 各 部 隊 ノ 勞 苦 ヲ 深 ク 多 ト ス 。

三一九 受信二〇四二 譯了二二〇三 電〇八七九〇
譯始二〇五五 電〇八七九〇 昭和十一年十月一日 概〇

緊急



先遣部隊

無線電所用共通符號

機密第一九一七三〇番電

416

E B 綜合情報第三三號

一、第五八 K D B 空母三乃至四隻ヲ基幹トスル四群ヨリナル十九日一

四三五地點ヲナレ〇〇空母四・一三四五ソウヌ三五空母四・一〇二

三ソノヌ〇〇空母三・アリ他ノ一群モ附近ニアルモノト認ム

二、十九日ハ四國中國方面飛行基地艦船攻撃セリ吳方面來襲機約二〇〇機

艦隊約三〇機被害極メテ輕微ナリ

三、其地航空部隊ハ攻撃續行中

四、K D B 使用電波四四七五 KC 及二一〇〇 KC

通一〇一〇七 於十四(五二九五 KC) 六時放櫻井(森田)



三二〇 受信〇〇九三二五 譯了 一〇一〇 電〇九〇二五 作概〇

佐通・鹿屋航空基地

種子島航空隊

機密第一九一七四四番電

417

宛 佐世保施設部長 南九州地方施設事務所長

受報者 佐施 四〇七部隊長

一、三月十八日敵機延八七機來襲（材料庫）二棟全焼トラツク六臺大

破 其ノ他詳細調査中

二、三月十七日五A B 參謀長ヨリ當隊出水基地ニ轉進ノ報アリ今後ノ
行動ニ關シ至急指示ヲ得度。

通一〇二四七、呂一Bケ五三八〇二、五KG（鹿屋基地 明比（小澤）

昭和廿年參月廿壹日

三一九

受信二二一五〇〇

譯了二二四五

電

〇〇八八六六一

作

概

緊急

共

符

停

●

二艦隊

●

一遊撃部隊・吳鎮・五航空艦隊

機密第一九一八〇五番電

二分ノ二

發 第二水雷戰隊司令官

在吳第一遊撃部隊戰團概報 (三月十九日)

一 敵艦上機約

五〇機攻擊目標吳空方面第二〇八〇〇敵艦上機約一七〇機攻擊目標

吳在泊艦船第三〇九〇〇敵艦上機約五〇機攻擊目標

二在泊艦 (他部隊ヲモ含ム) 綜合戰果 艦矢矧ニテ確認セルモノ三

(機風ハ二三機確認シアリ)

三 神雲 (他部隊及空母ヲ含マズ) (4) 矢矧二號機 (於吳航空隊) 焼失

(回響原重傷)

通一〇〇六五 一〇〇八三

呂一五ケ五 (三七二一) 矢通放

明神山 (川口)

昭和廿年三月廿日

人

作戰緊急

三一九 受信二〇二五
譯始二〇五五

譯了二二三〇 電〇八七七八

航作 本概〇

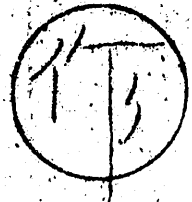
昭和廿年參月廿日

鹿屋航空基地

第一機動基地航空部隊作戰命令着信繼所

美保空・大村、横濱、松山各航空基地

（通報表示）航空艦隊司令部殘留部隊



機密第一九一八二〇番電

一 F G B 信電令作第一三二號

敵機動部隊ハ猶蠶動ヲ續ケツアルモ敵ノ次規作戰ニ備ヘ當部隊ハ一
應之ニ對シ攻撃ヲ中止兵力ヲ整頓セントス各隊ハ現配備基地ニ在リテ
飛行機ヲ第二準備姿勢トシ極力秘匿伏勢整備ニ努ムベシ。

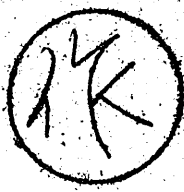
通一〇〇四六 呂一Bケ五（七五六五IC）三FGB放 寒河江（森 田）

昭和廿年參月廿壹日

三 二〇 受信〇〇一〇二七 譯了〇八二五 電〇八九八三 作 概

緊急

ヤツブ航 往 基地



⑤ 五基地空部隊戰概着信 艦所
⑤ 第三〇根 P

420

機密第一九一八三五番電

十九日戰鬪概報

一 一〇〇〇一〇四五グラマン戰鬪機一二機雷爆擊七攻撃機六計二
五機一〇〇度 P B M I 一機一六〇度ヨリ來襲第一飛行場及周
邊港灣水際附近ノ陸地銃爆擊後全機八〇度ニ去ル、一四五一
二四五 T B F 二機東方ヨリ飛來各部偵察飛行後〇度方向雲中ニ入
ル其ノ他目視内ニダラス二機
二 戰果 P B M I 一機細煙吐ク我ニ被害ナシ。

通一〇一九二 呂一B (七八五五K) 三道 阿部(吉) 田

三 二一九 受信開始 〇九〇三〇 譯了 一二三〇 電 〇〇九〇九六五 作 概

至 急

鹿屋空基地

一機動基地航空部隊戰闘概報着信體所

機密第一九一九二八番電 三分ノ一、二



一 K F G B 戰闘速報 (十九日)

一〇八〇〇以後ノ攻襲狀況左ノ通

K一〇三 彗星一二機 〇五五ヨリ 〇七一〇迄ニ發進内一機ハ地點一
ン三スニ於テ「G」型巡洋艦一隻ヲ確實ニ撃沈シタル後應ヘナ
シ一機發動機不良ニヨリ引返ヌ 残り十機ハ柏木隊長指揮ヘハ通信不
通ノ爲不明ナルニシテ敵機動部隊ニ突入セルモノト認ム
K一〇五 彗星十機 一一三〇頃發進一小隊三機ハ一二四五「シ」四七
Lノ空母四隻ヲ基幹トスル部隊ニ突入三小隊二機ハ「カワ」アノ

西一〇〇九七三 呂一五八三九三七、五五〇一 F G B 放

加藤・池波(久保田) (一)

昭和廿年參月廿壹日

空母二隻ヲ基幹トスル部隊ニ突入一機ハ種子島南端附近ニ於テ發動
機停止自爆四機敵ヲ見ズ墜投ス
三 戦果偵察後戦果判定偵察機隊歸投後ノ報告ヲ綜合

〔電信課註 本電三分ノ三既配布〕

人

三一九 受信二三二〇 譯了〇五〇〇 電〇八九一九 作 機

緊急

休

第一機動基地戰國欄報着信處所

鹿屋航空基地

機密第一九一九二八番電 三分ノ三

422

昭和七年六月廿五日

敵空母ニ與ヘタル損害甚沈最小限 度左ノ如ク判断ス十八日約不明
攻空母一隻晝間攻撃空母一隻十九日約不明攻撃空母一隻晝攻
不明ナリ

三敵機來襲状況鹿屋地廣一六二〇頃計三六機來襲地上砲火ニ依リ
五機墜損害輕微。

（電信課註） 本電三分ノ一、二未着）
通一〇一二五 呂一Bケ五（三九三七五）一KFG B放

福山（高橋）

三一九 受信二三〇六 譯始二三二五 丁二三五〇 電〇〇八八五六

作 機

昭和廿年參月廿日

緊急

阪

警



大臣・總長・海上護衛總口
吳通・横通・舞通・三海上護衛隊

機密第一九一九三六番 二分ノ一、二

阪警戰間概報第一三號

一敵艦載機〇六三〇ヨリ一七〇〇ノ間延三五〇數次ニ直リ室戸崎方面ヨリ阪神地區ニ侵入主トシテ航空基地及川西航空會社船舶ヲ目標トシテ被爆ヲ行入り

三、被害 海軍關係

(1)伊丹飛行場第三滑走路ニ本日下修理中明日使用可能ノ元込
(2)其ノ他船舶四隻銃機ヲ受ク被爆輕微特殊漁船阿波丸沈没
一室戸港在泊一

三、戦果 被撃一八機。

一〇〇一三二一 呂一B、五(一)B(阪警 明比・岩佐一隊用)



三 一九 受信二一〇〇 譯了一八三〇 電〇九二二二 本作
 二〇 譯始〇〇四〇 〇〇

至 急



● 一機動基地航空部隊

● 鹿屋航空基地

機密第一九一九三九番電

424

發 至 A P 參謀

左ニ依リ十八日十九日ノ飛行機被害狀況及二十日現在保有(大破以上ヲ除ク)並ニ實動機數ヲ飛行隊別ニ通知サシ度

空中ニ於ケル被害(喪失被弾)

地上ニ於ケル被害(炎上 大破 中破 小破)

一〇〇七六

リサ(三九三七五) K F G B 板

猪瀬(訂井)

昭和廿年參月廿壹日

6090

人

三一九 受信二三〇五
始〇一三〇〇
了〇四〇〇
〇八九九一
作 概

至 急

共

符

作

父島根戰團概報着信機所

極密第一九一九四〇番電

二分

山

425

發 母警司令戰團概報

三月十九日

局長							
一課長							
A							
B							
C							
D							
E							
F							

一、(イ)〇五四一ヨリ〇六五三ニ直リB一二九一六〇度方向ヨリ本島上空及周邊ヲ一一〇〇ヨリ一二三五迄P五一十二機二二〇度方向ヨリ本島西海岸ヲ北上父島空襲後〇度方向ヨリ本島ニ來襲北河ニ襲撃後二〇〇度方向ニ遁走。一電信課註 本電二分ノ二既配布

通一〇一一六 呂一aケ五(五一〇〇)父通 川(海羽)

昭和廿年參月廿壹日

人

三二〇 受信始〇〇八四〇五 譯了〇九二〇 電自〇〇八九八七

望急 松山航空基地

一機基地航空部隊戰國報着信處所
七聯合基地航空部隊戰國報着信處所



機密第一九二〇一五番電 四分ノ三

航空戰國報第二號 三月十九日

一、遂擊第一次紫電及紫電改五一機〇六三〇發進吳ニ侵入セントスル敵戰
國機及艦爆延約一五〇機ヲ内海西部敵ヶ所ニテ遂擊第二次二〇機一
四五發進敵ヲ見ズ

(1) 戰果遂擊日六日二三機(不確實三機)ボート・シヨルスギ一七機

B二〇二機遂破日六日二機計四四機

(2) 被害自爆三機未歸還十機不時着大破四機(重傷一輕傷二無事一)被破

四機(一名輕傷)

0510
〇〇〇
一七八七六

呂一〇ヶ五(三七二一〇)吳

西河 能木 (増田) (1)

昭和廿年參月番臺印

前線哨戒影雲三機(一)番機引返ス(一)〇五四五發足摺岬兩側三〇哩ノ

哨戒

(一)二番機(高田少尉、影浦上飛曹、遠藤上飛曹)〇六二五高知南方

二〇哩浮潛水艦〇六三〇足摺岬東方二〇哩區逐艦二隻ヲ發見發

動機不調歸候時高知西方八哩ニテ敵戰團機一〇〇機ノ中ニ突入内

一機ニ體當リ壯烈ナル^{自爆}町民目撃(一)並ニ三番機〇七一〇足摺岬南東

二〇哩南西遙中ノ巡洋艦二隻驅逐艦一隻ヲ發見隨路敵戰團機ヲ追

蹤ヲ受ケ避退。

(一)電信課註 本電四分ノ四未着)

人

三二〇〇

受信〇〇二二〇〇
譯始〇九一〇〇

譯了二一三〇

電〇九〇八四

〇〇作二概

至急

作

松山航空基地

一機動基地航空部隊戰闘概報着信艦所
七基地航空部隊戰闘概報着信艦所

機密第一九二〇一五番電四分ノ四

三 地上戰闘

(イ) 機銃ニ依ル擊墜四六機(内不確實二機) 米主下・シコルスギ一機

(ロ) 被害戦死二名重傷二名輕傷五名燒失紫電二機燃料三六本夫破九九式艦爆一(六〇一空)小破紫電一機其ノ他被害輕微
四着陸時三機大破

五明日ノ使用可能機數紫電九機紫電改二八機彩雲二機。

《電信課註 本電四分ノ二三三既配布》

海一〇二二二一 呂一〇七五 (B) 水更津 野村(石井)

427



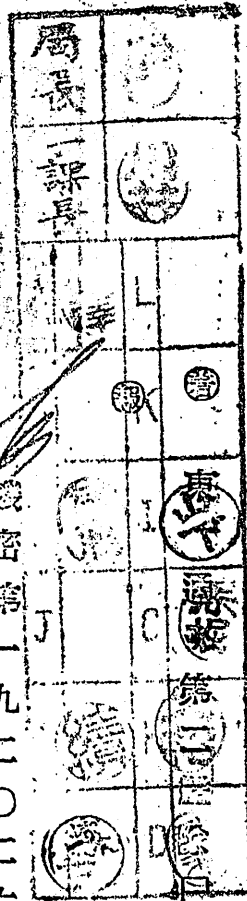
ト

作戰緊急

三 二〇 受信〇三三〇 譯了〇四四五
 譯始〇四〇〇 電〇〇八八五四 課 訊
 昭和二十年三月廿日

總無線艦所用共通符號

第五艦隊 P・吳 通



龍鳳艦長 吳鎮長官・軍令部 海軍省

宛 龍鳳艦長 吳鎮長官・軍令部 海軍省

通報・大竹警備隊

掃摩 (「パンカール」) 搭乗員中尉) ノ言ニ依レバ敵機動部隊ハ
 四群 (各群空母三) ヨリ成リ第三群 (旗艦「エセツクス」「パンカ
 ル」 「カボット」) ハ十九日〇六三〇迄日本軍ノ攻撃ヲ受ケ居ラ
 マ 今期行動ノ第一目標ハ艦船攻撃ナリト尙攻略部隊ニ囑シテハ知ル
 所ナシ最近「ウルシ」ニ於テ二回日本軍ノ攻撃ヲ受ケ相當ノ被害ヲ
 受ケタル模様ナルモ詳細不明掃摩ハ大竹警備隊ニ引渡セリ
 返(〇二四六、〇二五二 呂一Dケ五(三七二)C) 吳通 カタ山・京(様)

昭和廿年參月廿日

三一九 受信二三二五二 譯了二〇〇〇一〇電〇八八〇七 航作概本〇

作戰緊急



一機動基地航空部隊作戰命令着信艦所 橫濱空基地。美保空基地。?

機密第一九二〇三五番電

429

一KFGB信電令作第一三四號

敵機動部隊ハ尙蠢動ヲ續ケツツアリ當部隊ハ明朝以後水ニ投 歸セ

ントス各隊ハ左ニ依リ作戰スベシ

二第十一部隊及第八〇一部隊ハ既令ノ索敵續行

三爾後ノ諸隊ハ現配備基地ニ於テ攻堅下ニ命迄飛行機ヲ第二準備奉

トシ極力被害局限ニ努ム。

通一〇一〇一 呂一五ケ五(三九三七五KC)一KFGB放山内(秋葉)

昭和廿年三月廿五日

三二〇 受信〇〇八二五 譯了一一二五 電〇九四九九 補人・海設
至急 航本

東通・一二航空隊

聯合艦隊口・三基地航空部隊各口・二南遣艦隊口

機密第一九二〇五〇番電 二分ノ二

430

通報

大本營海軍參謀部第一部長 人事局 航空本部長 軍務局長
聯合艦隊參謀長

三、第一二航空隊ヲ印度支那航空隊へ合同スベシ一二空第十三航空艦

隊佛領印度支那基地隊及馬來航空隊佛印派遣隊員ハ何レモ印度
空相當職ニ發令。

電信課註 本電二分ノ一未着
通一〇二八七 呂一Bケ五(六二三五K)十通 末光(岩崎)

三二〇 受信〇二五七 譯了〇九四六 電〇九〇〇四 作 概
開始〇八〇〇



佐領・三三聯空
五航空艦隊

第二鹿屋航空隊

機密第一九二一三五番電

431

第二鹿屋航空隊戰鬥概報第一號十八日來襲敵機延八〇機戰果擊墜
一機被害下士官兵戰死二重傷二輕傷三三家屋半壞一棟十九日來襲
機約十機戰果ナシ被害下士官兵戰死二家屋全壞三棟半壞三棟。

通一〇二三五 呂一Bケ五(三八〇三、五KC)鹿屋

カゲ山(高橋)

昭和廿年參月廿壹日

三
二一九 受信一〇九二一一
譯始〇九一一〇
譯了〇九五五
電〇九〇〇二
作 概

停

① 一〇航空艦隊P・一三聯合航空隊

② 德島航空隊

③ 四三海防艦

機密第一九二一五二番電

432

戰國概報第一號

十九日午前午後敵艦載機下左ノ通り交戦ス

一〇七一五本隊上空ヲ通過F六F八機ニ對シ地上火器ヲ以テ銃砲撃ヲ加

ヘタルモ戦果被害共ニナシ

二一三二〇F四U一一機本隊上空侵入銃撃ヲ受ク

(1) 戦果撃墜二機(不確實)

(2) 被害人員機材被害ナシ 格納庫病舎庫等ニ若干ノ彈痕アリタル外

損害ナシ

通一〇一四七 呂一Bケ五(B) 阪警

山崎(山五)



三 二〇〇 受信 〇〇二四五 譯了 〇四二〇 電 〇八八二八 作 〇
 譯始 〇〇二四五 譯了 〇四二〇 電 〇八八二八 航 本 〇

緊急 機屋空地



第一機動基地航空部隊作戦命令全着信機所

機密	第一九	山下	光輝
A	B	E	J

一 K F G B 信電令第一六號

今次作戦ニ關シ右ニ就キ明二十日〇六〇〇迄ニ至急報告スベシ

一、(搭乗員ハ機種別ニ戦死及未歸還ニ区分)

(イ) 分隊長以上ノ官氏名

(ロ) 搭乗員組數

三 消耗機數 (機種別ニ區別ス)

(イ) 損耗機數

(ロ) 保有機數

(ハ) 實動機數

三、今次ノ戰訓ニ鑑ミ緊急對策ヲ探ルベキ事項。

通一〇一七五 ロケ Bケ五 (三九三七・五 EC) 一 K F G B 放

末松、鈴

昭和二十年三月廿日

昭和廿年参月廿五日

三 二〇 受信二三三四二〇 譯始〇二三三二〇 譯了一一四五 電〇九六四八 發 基

至 急

● カツトライ航空基地

● 九三六卒△・カムラン航空基地・?

● 海上護衛艦口・九〇一卒△・一三航空艦隊口・一一機△

機密第一九二三 四分ノ三

單浮舟機用ニ改ム

三 技師二名舟艇棧橋二具ノ他搭載物品船体機裝品施設器具舟艇等相

當

三 河岸及陸上方面對木葉茂シアリ且 丘地ニシテ水陸共飛行機ノ分散

秘匿及防護施設ニ適ス。

《電信課註 本電四分ノ一三四既配布

《東通註 本電同合セテ爲遲延

通一〇七 四 呂一Bケ五(四七四三五K)十通 高井(金森)

昭和十年三月廿二日

三 二一 受信 〇〇一〇一五 譯了 一〇〇〇 電 〇九五七六 發 基
譯始 〇一三〇 〇
至 急 〇 カ ッ ト ラ イ 航 空 基 地

● 九三六航空隊 〽。？。？

● 海上護衛總口・九〇一航空隊 〽。一三航空艦隊口・一一特根 〽

機密第一九二三一四番電 四分ノ四

四 鐵道及「カムラン」街道ニ沿ヒ交通便利陸路自動車ニテ「ツダウ石」

二五分西貢「カッタライ」四〇分

五 所在陸軍部隊旅一七〇〇五部隊（二個大隊）陸上基地（一一二〇〇米

ニ方向）ハ郊外約三軒施設完備。

（電信課註 本電四分ノ一、二既配布四分ノ三不着）

435

0520

通一〇七五四 呂一Bケ五（六二三五）十通 宮崎（小幡）

至 急

三二〇 受信 〇〇四四三
開始 〇〇九三三

轉了 二〇三〇 電 〇〇九九
〇〇九九
〇〇三三
二九〇九

作 區

昭和二十年三月廿一日

二南遣艦隊所屬艦船隊・パンジャルマシン水上機基地
カシゲアン水上機基地・二二根所屬艦船隊・水上機隊
ジャカルタ派遣隊

東京通信隊 一〇通信隊

機密第二〇〇〇一三番電 三分ノ一、三三

第二南遣艦隊 參謀長

第一〇方面艦隊長官 次長

東印部隊電令作第五五六號

二五五派遣水上機隊及第二南遣艦隊附屬輸送機隊ヲ以テ航空部隊（

指揮官三浦少佐）ヲ編成本職ノ直率トシ航空部隊ノ所在地（派遣先

ニ警備部隊ニ緊密ニ協力作戰スベシ

三月 附 砲置部隊 兵力部署左ノ通り改訂セラル

通 一〇二六九 天二〇ケ六（六一三六）（二一三）
（久俣田）（二）

一〇二七四 佐藤、西村、菅原

三 航空部隊ノ常駐（機動）基地ヲ概ネ左ノ通トス

スラバヤ シヤカルタ カンゲアン パンゼルマシン（アンボン
マカツサル バレンバン ムンチャル）

三 東印部隊暫令第五〇七號ニ依ルニEB指揮官ノ指揮ヲ解ク

一 主隊ノ次ニ航空部隊（直率）ヲ加フ第二南遣艦隊附屬水上機隊主要
任務海上交通保護索敵哨戒前線補給

二 一EBヨリ第二南遣艦隊附屬水上機隊ヲ三EBヨリ第二南遣艦隊附

屬水上機隊マカツサル派遣隊ヲ除ク。

0523

6



三二〇 受信〇一三二
開始〇八四五
了〇三三
電〇八九三〇
作標〇
本

昭和廿年三月廿一日

三各機樂艦隊中・佐

一九一三〇〇

437

セイ参電第五二二〇號

三月二十日〇時以降軍ハ南西諸島方面ノ作戦ニ關シ聯合艦隊司令長官ノ指揮ヲ受ケシヲラルルニ就テ今後トモ何分宜シク願度。

海一〇一九三 協防 (海三〇〇) 艦隊 谷島 (三三)